

令和3年度（令和2年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和3年9月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和2年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和3年9月

網走市教育委員会 教育長 岩 永 雅 浩

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和2年度教育行政推進方針」についての点検	
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3～ 4
3	豊かな人間性の育成	5～ 6
4	健やかな体の育成	6～ 8
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	8～10
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	10～11
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	12～15
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	16～21
2	社会教育	21～25
3	家庭教育	26～27
4	芸術文化	27～33
5	文化財	34
6	スポーツ	34～38
7	国際化対応	39
III	教育委員会の活動状況	
1	教育長および教育委員の就任状況	40
2	教育委員会議の開催状況	40～42
3	その他の主な活動	42
4	教育委員による自己点検	43～46
IV	外部評価報告書	
1	総評	47
2	大学という教育・研究機関の視点からの検証	47～48
3	社会教育の推進	48～50

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、すべての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和2年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和2年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和2年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取り組み実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和2年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、東京農業大学生物産業学部 教職課程 後藤広太郎准教授と、元網走市社会教育委員 山本成治氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」、「網走市教育行政推進方針」、「令和2年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「令和２年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、市議会第１回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和２年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

１ 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えますが、令和２年度においては新型コロナウイルス感染症の拡大により、５月まで学校では休校、施設においては休館せざるを得ない状況となり、また６月以降は再開されたものの、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」により、感染対策を講じたため、一部の事業の実施について影響がありました。

２ 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

１ 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項 目	幼児教育振興補助事業（教材教具補助金）
	平成２４年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

項 目	私立幼稚園特別支援教育振興補助事業（障がい児教材補助金）
	平成２４年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

2 確かな学力の育成

項 目	小中学校 I C T 教育環境整備事業[高速大容量通信ネットワーク整備]（新規）
目 的	G I G A スクール構想の実現のため、高速大容量通信ネットワークと電源キャビネットを整備する。
取組実績	全学校に高速大容量のネットワーク及び電源キャビネットを整備した。
成 果	一人一台パソコン端末環境において、円滑に使用することが可能となった。
課 題	ネットワーク障害時の対応
今後の方向性	時代に応じた ICT 環境整備に努める。

項 目	小中学校 G I G A スクール機器整備事業（新規）
目 的	G I G A スクール構想の実現のため、一人一台パソコン端末を整備する。
取組実績	児童生徒用パソコン端末 2,574 台、教職員用パソコン端末 293 台(再設定 260 台)を整備した。
成 果	I C T の活用により子どもたちの学びを保証できる環境を確保した。
課 題	主体的、対話的で深い学びにつながるよう、活用方法をさらに充実させる。
今後の方向性	時代に応じた ICT 環境整備に努める。

項 目	学力向上対策事業（継続）
目 的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	比較・分析が可能な学力テストの実施：小学校 1,023 千円、中学校 833 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課 題	継続して実施し、効果的な指導法等について分析する必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	教材・教具の整備〔教師用指導書整備（拡充）・プログラミング教育教材整備（新規）・英語科指導対応デジタル教材整備（新規）〕
目 的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	・知能検査：小学校 229 千円、中学校 0 千円 ・教材費等配当：小学校 5,550 千円、中学校 4,603 千円 ・義務教育教材の整備(市単費)：小学校 4,843 千円、中学校 4,786 千円 ・理科教育教材の整備(国補助)：小学校 3,398 千円、中学校 2,706 千円 ・教師用指導書、教科書の購入：中学校 17,927 千円 ・プログラミング教育教材の整備：小学校 1,703 千円 ・英語科指導対応デジタル教材の整備：小学校 1,436 千円 ・通知票、卒業証書の印刷：小学校 542 千円、中学校 371 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置増員〕（拡充）
目 的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（A L T）」を配置し、生きた英語に触れることにより、生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	・外国語指導助手（A L T）の配置（2 名） ・小学校 9 校、中学校 6 校を訪問・指導 ・英語能力コンテスト等への協力 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・地域における国際交流への協力 A L T 1 名途中帰国により、小学校実績なし
成 果	A L T の生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られている。
課 題	A L T の来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3 年程度の継続雇用が必要と考える。
今後の方向性	2020 年度からの小学校での外国語の教科化に合わせ、A L T を 1 名増員し 2 名体制としたが、この体制を維持していく。

項 目	学習支援員配置事業（継続）
目 的	市費負担による算数・数学における教員を配置し、習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、市立小学校 4 校、中学校 2 校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成 果	きめ細かな指導が可能となり、基礎・基本の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課 題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項 目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目 的	小学 1 ～ 3 年生を対象に学生ボランティアによるサポート授業を行い、参加児童にとって必要な学力を見極め、「確かな学力」を身に付けさせる。
取組実績	東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 実施回数 4 回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数 2 回減 延べ参加人数 1 年生 3 名、2 年生 13 名、3 年生 10 名 その他 2 名 計 28 名
成 果	低学年からの学習習慣の定着
課 題	参加する児童のニーズに応じた学習内容の設定
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

項 目	キャリア教育の充実
目 的	児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。
取組実績	2020 年 4 月より全ての小中学校で「キャリアパスポート」の導入を行う。
成 果	キャリアパスポート用ファイルの購入（小学校 1700 部、中学校 870 部 ※予備含む）
課 題	各学校でどのような教科、内容で取り組みを進めるか検討が必要
今後の方向性	毎年新小 1 に対してキャリアパスポート用ファイルの整備を行い、キャリア教育の充実を図る。

3 豊かな人間性の育成

項 目	教材・教具の整備〔学校図書〕（継続）
目 的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	文科省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 2,910 千円、中学校 1,940 千円 また、H30 年度より図書館で利用する消耗品の購入費として、各校 10 千円を配当
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。 小学校 2,222 冊購入、中学校 1,499 冊購入
課 題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	令和 2 年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で 104.1%、中学校全体で 108.4% となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項 目	学校図書館司書の配置（継続）
目 的	学校図書館に学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用促進を図ることで、児童生徒の読書への関心を高め、基礎学力の向上を図る。
取組実績	司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 平成 25 年度から学校図書館司書 1 名を小学校 3 校にモデル的に巡回配置。平成 27 年度は 3 名体制として司書教諭不在の状況を解消、平成 29 年度よりさらに増員して 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い連携して読書への関心を高める取組みを推進している。
成 果	本の整理・分類整備が進み、貸出冊数の増加や高学年の利用が増えるなど、児童生徒の読書への関心が深められた。
課 題	引き続き児童生徒の読書への関心をより向上させるための検討が必要
今後の方向性	今後もすべての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。

項 目	読書感想文コンクールの実施（継続）
目 的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることで児童生徒の読書意欲を高めて、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業により夏季休業短縮のため中止
成 果	
課 題	選書、応募期間など、児童生徒が取り組みやすい実施方法の検討が必要
今後の方向性	学力向上策の一つとして、今後も継続していく。

項 目	網走市子ども会議の実施（継続）
目 的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめの問題への取組の一層の充実を図る。
取組実績	児童会や生徒会（又は児童会や生徒会の役員）等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流や、いじめの根絶・命の大切さなどについての意見交流を行った。 参加者 小学校 18 名 中学校 12 名
成 果	小学校、中学校毎のグループで意見交流を行い、取り組んでみて良かった点や課題解決に向けての意見を共有し、自校の活動の参考となっている。
課 題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目 的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	特になし。
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	いじめ対策事業（継続）
目 的	いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。また、講演会や啓発資料の作成を通して、児童生徒、学校、保護者へいじめ問題への取り組みの重要性を広める。
取組実績	・スクールカウンセラーを活用した学校への指導、助言 ・いじめ防止ポスターの作成
成 果	いじめ問題の取組について、普及・啓発が図られた。
課 題	「いじめはどんな理由があっても許されない」とする意識と態度の醸成
今後の方向性	児童生徒一人一人がいじめ問題の認識を持ち、学校全体で未然防止の取り組みが出来るよう必要な支援を行っていく。

4 健やかな体の育成

項 目	学校プール管理事業（継続）
目 的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。（小学校7校）
取組実績	・市内7校のうち4校で実施（網走、西、東、白鳥台小学校） ※3校は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・プール管理人を各校1名配置（委託先：シルバー人材センター） ・プール環境の点検も管理人が実施（水質、水温、室温等） ・定期検査実施（学校薬剤師と市1名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等点検） ・児童が使用する際は、委託の管理人の他に教師2名を配置し監視する。 ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成 果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項 目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目 的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	スケートリンク等設置で補助 4校（網走小、東小、白鳥台小、西が丘小）
成 果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	スケートリンクの造成はPTAの方々による協力が多大であるが、リンクの造成に負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項 目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目 的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	・ 設備・備品の主な修繕・更新の実施状況 給食調理場石油給湯器取替工事(南小 396 千円) 給食調理場真空冷却器修繕工事(西が丘小 689千円) 給食調理場給食室床補修工事(西が丘小 559千円) 給食調理場排風機修繕(西が丘小 200千円) 給食室用冷蔵庫購入(潮見小 132千円) ・ 学校給食従事職員研修会(年 1 回) ・ 学校給食巡回指導の実施(年 3 回、栄養教諭の配置がない 3 校へ) ※保健所による検査 年 1 回 ・ 給食調理員の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 ・ 児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成 果	衛生管理に努め、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に供給し、健やかな身体の成長を図ることができた。
課 題	継続して施設改善・備品等整備・衛生管理等に努めるとともに、児童生徒に安全で安心な学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	今後も施設設備の維持修繕・更新を進めるとともに、給食の安定供給を図るための調理体制の整備を進める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全で安心な学校給食を供給していく。

項 目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目 的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。地場産物を活用した給食を実施し、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	・ 栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭 5 名配置） ・ 「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施し、希望校においては生産者講話を実施（メニュー：ご飯、鮭ザンギ丼、ごぼう入りすりみ汁、牛乳） ・ 地元産業や地場産物への理解を深めるため、網走産行者菜やあばしり和牛を使用した給食の実施 ・ 学校給食用パンへの網走産小麦 100%使用 ・ 鯨食文化の理解を深めるために、鯨皮を使用した給食の実施 ・ 野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした野菜の日給食の実施
成 果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。また、栄養教諭未配置校においても食に関する指導を実施し、食育を推進するための体制が整備された。
課 題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の構築
今後の方向性	・ 栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。 ・ 地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」等の地場産品普及事業を継続して実施していく。

項 目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目 的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	・ 新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・ 在籍する児童生徒を対象とした各種健診の実施（尿検査、結核健診、脊柱側湾症検査、眼科検診、心臓検診）
成 果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られている。
課 題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項 目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目 的	市内の小学校に通う児童が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や基礎体力の向上を図り児童の体力づくりの向上に資する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する興味付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の体力向上を図る。

項 目	タグラグビー大会の開催（継続）
目 的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図ることを目的とする。
取組実績	参加児童 小学生（第3学年～第6学年）14チーム、98名
成 果	タグラグビーへの取り組みを通して、身体的な能力の向上、健康的な体づくりを図った。
課 題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	ラグビー協会の協力をいただき各学校におけるタグラグビーの取り組みを積極的に行っていく。今後も継続して大会を開催していく。

項 目	中学校体育文化振興事業補助（拡充）
目 的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	補助実績 2,151千円
成 果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、中学校教育の充実に寄与した。
課 題	保護者の負担軽減を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項 目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（継続）
目 的	特別支援学級、通級指導教室（ことばの教室）の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	・特別支援教育費学校配当：小学校9校2,273千円、中学校5校1,042千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備：小学校9校(37学級)918千円 中学校5校(17学級)608千円 ・通級指導教室（ことばの教室）への教材費等配当：小学校1校(1教室)395千円
成 果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課 題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項 目	特別支援教育研修事業（継続）
目 的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	各種研修講座の案内
成 果	研修会の開催をはじめ、北海道のパートナーティーチャー派遣制度を活用するなど、研修機会を増やすことにより、担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られている。
課 題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項 目	特別支援教育支援員の配置（拡充）
目 的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	支援員の配置：小学校 5 校・21 名、中学校 3 校・4 名 実態に合わせ勤務時間を延長した。
成 果	支援員を配置することにより、特別支援学級等でのより円滑な学級運営が図られた。
課 題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した授業を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項 目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目 的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	・相談室の開設（相談員は教育から 1 名、福祉から 2 名を配置） ・相談延べ件数：93 件
成 果	相談員が学校や関係機関との連絡調整を図りながら、問題解決に向け指導・助言を行っている。
課 題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応していくよう相談室の充実を図る。

項 目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目 的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 ・相談数 年間 273 回、1,167 時間
成 果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課 題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	不登校児童生徒への支援の充実〔適応指導教室運営事業〕（継続）
目 的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い、集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、適応指導教室を設置する。
取組実績	・適応指導教室指導員の配置(1 名) ・適応指導教室「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前 9 時～午後 3 時） ・通級児童生徒数 R2 年度 5 名(小学生 0 名、中学生 5 名)
成 果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られている。
課 題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさもある。
今後の方向性	現在も不登校児童生徒がいることから、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるよう適応指導教室の充実を図る。

項 目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（継続）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)を小学校4校(中央小、西小、南小、西が丘小)、中学校3校(第一中、第三中、第五中)で実施した。
成 果	Q-Uテストの結果を、学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決を図ることができた。
課 題	継続してテストを実施し、データを蓄積することで、より確実な対応が可能となるので、小中連携の充実が必須となる。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を図る。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項 目	学校開放運営事業（継続）
目 的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放しスポーツ・文化活動の場として活用する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため停止
成 果	年間を通じ多くの市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課 題	利用者の増加とともに、希望日に利用できない場合が増えている。
今後の方向性	スポーツ・文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項 目	学校教育指導奨励事業（継続）
目 的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成 果	指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られ、実践研究成果の普及に努めている。
課 題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図っていく。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上・児童生徒の学力向上に努める。

項 目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目 的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクールの導入を行う。
取組実績	C S 研修会 導入校 令和元年度 令和2年度 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 西部地区学校運営協議会(西が丘小、第五中) 東部三校学校運営協議会(東小、白鳥台小、第四中) 呼人地区学校運営協議会(呼人小、呼人中) 中央、西地区学校運営協議会(西小、中央小、第二中) 網走小学校学校運営協議会 潮見小学校学校運営協議会 第三中学校学校運営協議会
成 果	先行実施校において学校運営協議会の活動が開始した。
課 題	各学校においてどのように地域との連携を図るか今後の取組内容の充実が必要
今後の方向性	研修を行うなど、学校運営協議会の取り組みの充実を図れるよう支援する。

項 目	奨学資金貸付事業（継続）
目 的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	・資金貸付状況 2件 384,000 円 大学・専門課程（月額 18 千円） 1 件、216,000 円 高校・高等課程（月額 9 千円、入学準備金 60 千円） 1 件、168,000 円 ・償還金収納状況 1,298,000 円 現年度分 610,800 円（収納率 76.7%） 滞納繰越分 687,200 円（収納率 5.1%）
成 果	収入基準は、学生支援機構の 1.1 倍に設定し、更に収入基準の 130%超過まで認定するなど、間口を広げることににより利用の拡大を図っている。
課 題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないよう、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取り組みが必要である。 経済的理由により就学の機会を失うことがないよう、制度の周知を図っていく。
今後の方向性	制度の周知を積極的に行い、利用の拡大を図っていく。 今後も事業を継続していく。

項 目	大学給付型奨学金事業（継続）
目 的	向上心があり、学業成績が優秀な学生であり、経済的理由により就学困難と認められる者に対し、奨学金等を支給し、社会の有用な人材を育成する。
取組実績	資金給付状況 2件 2,400,000 円 大学（月額 100 千円） 2 件、2,400,000 円
成 果	経済的な理由で就学が困難な学生が希望校に進学することができた。
課 題	特になし。
今後の方向性	企業からの寄付を原資としているため、新規受付は平成 30 年度で終了

項 目	学力向上フォーラムの開催（継続）
目 的	オール網走で学力の向上を目指し、学校・地域・保護者が一体となって、子どもの望ましい成長を考える場とする。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	地域・保護者の参加者を増やす取り組みが必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	小中学校就学奨励事業（継続）※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目 的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、すべての児童生徒が義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。
取組実績	・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、給食費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA 会費、クラブ活動費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費の援助 ・学校保健安全法第 24 条及び同法施行令第 8 条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・R2 準要保護児童生徒扶助児童数 482 名、特別支援学級在籍扶助児童数 71 名
成 果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られている。
課 題	認定事務の効率化に向けた検討を進めていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項 目	教員住宅管理事業（継続）
目 的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員が快適に生活できる環境をつくる。 （令和2年度末 管理住宅70戸）
取組実績	・ 8月中旬に修繕要望を取りまとめ、9月中旬に現地調査を実施 ・ 修繕内容：住宅補修、水廻り・ボイラー修繕、暖房設備修繕等 ・ 人事異動に伴う新入居者の決定（3月下旬に教職員住宅入居者選考委員会による）
成 果	修繕要望があった箇所は緊急度が高いものから優先的に修繕を行い、快適な生活環境を整備している。
課 題	現状の予算規模内で修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も現状の予算規模内で維持修繕を行うが、老朽化が進んでいるため、可能な範囲での住環境の整備に努める。

項 目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目 的	小中学校施設の管理（備品購入、業務委託等）をし、児童生徒や教職員が安心・安全に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：中央小 芝刈機(164千円)、西が丘小 複合機(726千円)、西小 ウェットバキューム(138千円) 【中学校備品】：第二中 自動床洗浄機(440千円)、第三中 プリンター(214千円)、第四中 除雪機(717千円)、第三中 シュレッダー(329千円) 【委託業務】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、トイレ清掃 学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費16,529千円、役務費709千円、備品購入費1,378千円 合計18,616千円 【中学校】需用費11,166千円、役務費314千円、備品購入費 583千円 合計12,063千円
成 果	学校からの要望や耐用年数等から備品の購入や業務委託を行い、施設の維持が図られている。
課 題	予算の有効活用と優先順位の検証を行う。
今後の方向性	今後についても引き続き、予算規模内で備品管理、業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安心・安全な環境づくりを引き続き進めていく。

項 目	小中学校監視カメラ整備事業（新規）
目 的	小中学校にカメラを設置することで、学校管理の安全性を強化し、良好な環境をつくる。
取組実績	【小学校】網走小、西小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小、呼人小中(2,970千円) 【中学校】第一中、第二中、第三中、第四中、第五中(2,134千円)
成 果	犯罪抑止効果があり、安心・安全な環境を整備した。
課 題	特になし。
今後の方向性	令和2年度で事業終了

項 目	学校改修事業（継続）
目 的	学校施設の長寿命化を図り、児童及び生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	潮見小学校プールサイド改修工事(2,640千円) 潮見小学校屋体屋根改修工事(32,890千円) 第一中学校自動火災報知設備改修工事(7,392千円) 第二中学校加圧給水装置更新工事(2,640千円)
成 果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課 題	改修財源の確保
今後の方向性	より有利な財源となる補助事業等を活用するとともに、改修計画に基づき学校施設や設備の長寿命化を図り、安全安心な学習環境を維持する。

項 目	学校施設の営繕・修繕工事（継続）
目 的	小中学校の校舎やグラウンド等の維持修繕及び営繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	主な営繕の実施状況 【小学校】：東小学校プールテント補修工事(1,177千円)、中央小学校グラウンド改修工事(1,078千円)、東小学校屋体床面補修工事(312千円)、網走小学校ボイラー改修工事(1,460千円)、専和設備改修工事(西小、西が丘小、呼人小中2,695千円) 【中学校】：第三中学校グラウンド改修工事(1,187千円)、第五中学校屋体照明取替工事(417千円)、第二中学校屋体床面補修工事(558千円)
成 果	学校からの要望や耐用年数等から、学校施設の必要な維持修繕及び営繕を行い、施設整備が充実され安心・安全な環境がつけられている。
課 題	維持修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安心・安全な環境づくりを進めていく。

項 目	教員住宅確保対策事業（継続）
目 的	網走市内小中学校に勤務する教職員の住宅を確保するため、株式会社網走振興公社が民間等から借上げして、教職員に賃貸する借上住宅の使用料の一部に対し補助を行う。 (令和2年度末 民間アパート2棟、36戸借上げ)
取組実績	網走市立小中学校に勤務する教職員の住宅を確保し、教育環境の整備を図る。
成 果	網走市内小中学校に勤務する教職員の家賃負担の軽減
課 題	特になし。
今後の方向性	令和2年度で終了

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目 的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材・教具の整備を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額90千円の補助を行った。
成 果	教材・教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課 題	教材等の整備により、さらなる生徒の学習意欲や勤労をはじめ社会活動におけるスキル向上のための支援が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業(継続)
目 的	定時制高校生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額 1,228 千円の補助を行った。 実績 延べ 1,252 人利用 利用日数 193 日
成 果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課 題	入学者数の確保
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	スクールバス運行事業(継続)
目 的	網走市郊外の西部地区及び東部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	・遠距離通学児童生徒のため、西部地区 3 路線、東部地区 5 路線の登下校便を運行する。 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバスの学校配当を行う。(小学校 1,364 千円、中学校 999 千円) ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を行う。 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を行う。
成 果	遠距離通学児童生徒の通学における利便性の向上と負担の軽減が図られている。
課 題	児童生徒の状況により、停留所や路線を毎年度見直ししていることから、利用者によって乗降場所に遠近の差が生じる、季節や状況によって乗降位置が変更するなどの実態がある。また、過去に設置された待合所が老朽化等により未利用の場合、順次撤去を行う必要がある。
今後の方向性	今後も継続して安全・安定運行に努める。また、路線及び停留所の設定等については、地域と協議のうえ、取り進めていく。

項 目	スクールバス整備事業(新規)
目 的	郊外地区の遠距離通学となる児童生徒の安全・安心な通学手段を確保する。
取組実績	嘉多山・越歳線の老朽化したスクールバスを更新整備した。
成 果	遠距離通学児童生徒の安定的な送迎が図られている。
課 題	車両の状況により、故障の頻度が異なり、購入・納品まで時間を要することから、更新時期の見極めが難しい。
今後の方向性	スクールバスの点検整備や維持管理を行い、児童生徒の安全な通学環境の確保に努める。

項 目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕(継続)
目 的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を実施し、安全対策について確認を行った(令和 2 年 7 月 7 日、16 名参加)。子どもの安全確保連絡会議を開催し、関係機関との協議を行った(令和 2 年 11 月 27 日、24 名参加)。危険箇所については関係機関の協力のもと対策を実施した。
成 果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課 題	より効果的な安全対策について検討する。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項 目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目 的	ふるさと寄付を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	市内小中学校（網走小、第一中、第二中、第三中、第五中）から要望のあった楽器を整備した。
成 果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課 題	楽器が高価であるため整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項 目	教職員研修事業（継続）
目 的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	新学習指導要領への対応など教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	校務支援システム管理事業（継続）
目 的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	全ての小中学校で、教職員の校務用パソコンによる校務支援システム（C4th）の運用を開始した。
成 果	全ての学校において校務支援システムを活用した業務を行い、業務の定型化・情報の共有化が図られ、効率化した。 （主な業務内容）学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課 題	全ての学校でできるだけ多くの業務への運用する必要がある。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項 目	学校教職員健康診断事業（継続）
目 的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 218 名の健康診断を実施（うち、要再検 66 名）
成 果	健康診断を実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課 題	各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を広げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民の誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市内の団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	・対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込める学習会とし、運営補助的事業を除く。 ・要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 講師謝金の助成。 ・事業実績 4団体4件 210名（ワークショップ2・研修会等2）
成 果	市民自らが企画する学習会を支援する制度として定着し、既存サークルや子育てグループまで幅広く活用されている。また、今年度よりオンラインによる学習会・講習会でも活用可能とし、利便性を高めた。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知 PR が必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項 目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目 的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	・登 録 者 26名 ・登録内容 工作・実験、パンづくり、硬筆習字、音楽、折り紙、けん玉など16種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（48回 327名参加）
成 果	登録された講師により「ロセトクラブ」を開催している。
課 題	登録者の主体的な取り組みを推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

項 目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目 的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	・登録者 24名 ・指導内容 40項目（6部門21分野） ・指導先 学社融合事業「まちの達人出前事業」講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師ほか
成 果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の学習の充実が図られた。 また、指導者の学習成果還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課 題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元の間を提供することは、登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

（２）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項 目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目 的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・市公式フェイスブック、ツイッターによる情報提供 ・登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成 果	各種媒体の活用により社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課 題	より効果的なPRのため、情報化社会に対応した手法の研究が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやフェイスブックなどのSNSを活用し若い世代を含めて広く情報提供に努める。

（３）生涯学習関連施設の整備、機能向上

項 目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目 的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	・創作室陶芸窯更新工事 3,397千円 ・舞台吊物設備（スイッチ）修繕工事 297千円 ・構内電話交換設備等工事 4,180千円
成 果	・15kwの電気釜について、設置から20年が経過し、修繕が困難な状態になっていたため、機器更新を行った。 ・舞台吊物設備（スイッチ）及び構内電話交換設備について、主要部品の生産が終了していることから、トラブルを未然に回避のため修繕及び工事を実施した。
課 題	設備の耐用年数や安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的設備更新や修繕を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコーセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の間として重要な施設であることから、今後も安心安全な施設利用が出来るよう、設備の維持更新に努めていく。

(4) 図書館の充実

項 目	電子図書館整備事業（新規）
目 的	電子書籍をインターネットで提供することにより、来館せずに市民が24時間どこでもいつでも貸出、返却、閲覧することが可能とするもの。 令和2年12月15日 サービス開始
取組実績	・電子図書数 導入時2,000点、令和2年度末3,640点 ・ID・パスワード申込者数 982名、利用者数701名、貸出冊数2,891冊
成 果	電子図書館ならではの自動返却機能等の利便性や、英語音声つき資料等を提供することができ、多様なサービス提供と新規利用者の拡大が図られた。
課 題	中高生の利用促進
今後の方向性	あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。

項 目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目 的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより、多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・資料購入及び寄贈数：図書 4,210冊（内寄贈等 455冊）、雑誌 1,431冊（内寄贈等 227冊）、視聴覚資料 35点（内寄贈 1点）、地方資料 250冊（内寄贈等 188冊） ・図書館蔵書数：R2年度末 204,942冊（地方資料 26,078点を含む） ・図書貸出人数 28,501名、貸出冊数 131,477冊、来館者数（本館）78,718名
成 果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課 題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴い購入した多くの図書が20年ほど経過しており、陳腐化し古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項 目	地域分庫事業（継続）
目 的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	・市内10箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 957名 貸出冊数 1,239冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区4分庫）
成 果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課 題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と、蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項 目	ふるさと学習支援事業（継続）
目 的	地域情報の発信を図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	・企画展示の開催（年4回） 「アイヌ文化の世界」、「北海道遺産」、「図書館のあゆみ」、「懐かしの学び舎」 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成 果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課 題	・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的なPR方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項 目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目 的	インターネットを活用し利用者サービスの向上を図る。
取組実績	・インターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス等の実施 ・スマートフォン等に対応した利用者サービスシステムの運用 ・R2年度 アクセス数 269,412件、パスワード新規登録者188名（登録総数 4,284名） ・インターネットによる予約サービス利用 2,015件（予約サービス利用総数 5,737件）
成 果	インターネットの活用により、利用者の利便性が図られた。
課 題	図書館事業や利用方法の周知など、ホームページやSNSの定期的な内容更新が必要
今後の方向性	今後もホームページでの情報提供と予約サービスの充実により、インターネットを活用した利用者サービスの向上を図る。

（５）読書の普及、読書活動の促進

項 目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目 的	図書館の本は、殆どの公共図書館・学校図書館で使用されている日本十進分類法により配置されており、代表的な一つの分類しかできないが、分類番号は異なっている健康や料理などのテーマでまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	・日本十進分類法とは別に分類して「くらしのコーナー」、「いきいきシニアコーナー」を設置
成 果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課 題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の見直しをしながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項 目	ブックスタート事業の実施（継続）
目 的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用向上を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（181名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（82名）
成 果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課 題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項 目	学校巡回図書（クリオネ文庫）推進事業（継続）
目 的	図書館が小学校と連携し、図書館の本を各教室に配置することで、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学生の身近な場所である学校で本に親しむ環境作りを進めるため、小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 72学級。配置図書：3,420冊
成 果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課 題	・実施に当たっては、引き続き学校と連携した取り組みが必要 ・学校図書との役割分担が課題
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、本の入れ替えを行いながら、継続して実施する。

項 目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目 的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・よみきかせ会（えほんのもり 36回 358名参加、子育て支援センター 3回 44名参加） ・お楽しみ会開催（夏・冬）23名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）40名参加 ・「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施
成 果	・よみきかせ会を通じて、子どもの言葉、表現力を磨くことができた。 ・図書館の仕事にふれることによって、読書の楽しさを知るきっかけづくりが図られた。
課 題	ボランティア団体の会員減少に伴う協力事業の内容の変更
今後の方向性	広く市民の読書活動を推進するため、継続して実施していく。

項 目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目 的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	・対面朗読サービス、視覚障がいの方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」でのよみきかせ、高齢者施設等でのよみきかせなどを実施 ※図書館まつり、蔵書点検等へのボランティアとの協働は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	・点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課 題	・ボランティアの新たな人材の確保
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項 目	ボランティア養成事業（継続）
目 的	ボランティア団体の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	・外部講師を招いた中級朗読講座を開催 10/13 中級朗読講座 8名参加 ※ボランティア団体のメンバーの講師による布絵本作り講習会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	朗読講座等を通じ、読み聞かせボランティアのスキルアップが図られた。
課 題	ボランティア活動の内容充実と参加者拡大のために講座等の内容の工夫が必要
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項 目	図書館まつりの開催（継続）
目 的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	・子ども俳句・短歌大会 展示10月7日～11日 応募総数1,362点 表彰式 10月11日（日） ※「古本市」「人形劇公演」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	図書館の利用促進及び読書活動の推進が図られた。
課 題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項 目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目 的	乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	・「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：253回 ・「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：90回
成 果	「どんな絵本を選んだらよいか」との保護者の悩みに応えるため、司書が乳幼児向けの年齢別に選んだ絵本パックを作り、貸し出すことにより、乳幼児親子の図書館利用の促進と読書のきっかけづくりが図られた。
課 題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

（1）すべての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項 目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目 的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	・初心者のための手作りみそ友講座（春季） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・原子模型を作ろう 18名 ・ウィルタ刺しゅう入門講座 全4回 9名（延べ34名） ・初心者のための手作りみそ友講座（冬季） 全2回 8名（延べ16名）
成 果	ウィルタ刺繍講座は、サークルが指導を担い、文化の継承に貢献している。 また、様々なジャンルの多様な講座内容としたことから、新たな市民ニーズに応えることができた。
課 題	市民が地域での問題点や課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払っていかなければならない。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により地域の課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開催する際の支援をし、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	・書道、クラフトバンド 3講座6回 ・参加 42名（延べ59名）
成 果	市民やサークルのボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課 題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項 目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目 的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	大学の知的財産と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容との適合
今後の方向性	北海道科学大学やOB会と連携して、充実した講座を開催していく。

項 目	あばしり学講座の開設（継続）
目 的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	■単講座 ① 7月18日「網走湖体感ツアー～水に学び、水と遊ぶ～」参加者 35名 ■親子講座 4家族 全7回 ① 10月3日、10月21日、24日 かぼちゃで作ろう！ジャックオランタン（全3回） ② 1月16日、31日、2月6日、7日 「親子で雪像づくり」（全4回） ■青年講座 U-35（18～35歳） ① 1月26日、31日、2月6日、7日 「雪像づくり！」（全4回）参加者 13名 ■ロセトコース（対象）小学4～6年生 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ■学生HERO'S（対象）中学・高校・大学生（参加者）延べ240名 全19回 ・説明会 2日間 39名 ・市子ども会育成連合会連携 2日間 36名 ・網走湖体感ツアー 10名 ・雪像づくり体験 5日間 78名 ・季節の掲示板（秋）8日間 延べ55名 ・秋の網走の魅力を体感 22名
成 果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした講座があったものの、親子講座・青年講座など、網走の魅力を共有するさまざまな機会を創出することが出来た。学生HERO'Sについては、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課 題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進めることが重要である。
今後の方向性	関係機関との連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項 目	寿大学の開設（継続）
目 的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	・大学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 一般教養（開設数6回：8～12月は午前・午後の2分割で実施） クラブ活動、自治会活動 入学式、賀寿祝賀会、卒業式並びに修了式 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、分散登校2回（6・7月） ※休校中に「ラジオで寿大学」放送 全5回（5～7月） 教養講座の一部、大学祭、学年別学習会、自治会行事等 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 在籍数 201名（1年27名、2年13名、3年17名、4年13名） （大学院44名、生涯研究生87名） ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第4木曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数10回
成 果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部講座や行事が中止になったものの、高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を自治会の協力により提供できた。学年別学習や大学院1年生のグループ学習は、仲間づくりの機会ともなり、高齢者の学習意欲の更なる高揚が図られた。
課 題	一般教養講座では、高齢者の生活課題を学習テーマとすることが重要。また、クラブ活動や自治会活動を通して学んだ成果を社会参加やボランティア活動に繋げていくことを奨励する必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応するとともに、学年別学習、自治会活動、サークル活動を通じた社会参加や地域交流を促進することにより、高齢者の知識や技術等を広く市民や後世に伝える大切さを指導していく。

項 目	暮らしをデザイン2020の開催（継続）
目 的	市民一人ひとりが家庭や学校、地域社会における男女平等意識の高揚を図るため、女性学・男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスなど現代的生活課題を学習する講演・学習会を開催する。
取組実績	・開設日：3月20日（土）午後1時30分～午後3時40分 ・講演名：「テレワークで暮らしをデザイン～働き方が変わる・学び方が変わる・地域が変わる～」（オンライン講座） ・講 師：株式会社テレワークマネジメント兼株式会社ワイズスタッフ 代表 田澤 由利 氏 ・会 場：エコセンター2000視聴覚室 ※Zoom参加者は各自宅からオンライン参加 ・内 容：テレワークのメリット、デメリット、今後の働き方や学び方が、テレワークによってどのように変化していくのかなどの講演 ・参加者：29名（会場参加13名、Zoom参加16名）
成 果	新型コロナウイルス感染症への対応として、より柔軟な働き方が求められている中で、テレワークの具体的な仕組みを理解することができ、今後の柔軟な働き方の可能性について考える機会となった。
課 題	住民が課題と感じていることを知り、テーマに取り入れる地域課題の発掘と周知方法の検討が必要である。また、幅広い世代の生活などを見つめなおす機会とするためには、課題を共有しながら相互理解を深めるテーマやプログラムを研究していく必要がある。
今後の方向性	女性学・男女共同参画をはじめとして、生活課題に関しての学習機会を、男女を問わず多様な年齢層の市民に拡大していくため、講演内容や開設方法を研究していく。

（２）子どものための学習や体験の場の提供

項 目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目 的	子どもたちの安全で安心な活動拠点づくりのために、放課後や週末に地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動、交流・体験活動の場を提供する。（遊村あばしり）
取組実績	・開設日：6月～翌年2月／平日 午後3時～午後5時／休日 午前10時～正午 ・開設数：290回※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5月は中止、1教室は未開設 ・会 場：市内6ヵ所（コミュニティセンターほか） ・指導者：市内3団体 ・内 容：①キックベースボール、トランプ、スポーツライティング、音楽 ②遊び、工作、学習とアート体験、書道、スポーツ、季節の遊びほか ③遊び、学習、工作ほか ・参加数：延べ2,727名
成 果	NPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課 題	国費補助の状況が変化する中、教室の安定的な運営を図る必要がある。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項 目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目 的	子どもたちが大勢集まり、様々に楽しめる空間や、日常の遊びのヒントになるような場を提供し、遊びから培われる「子ども文化」の醸成を支援する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	市民指導者、スタッフの育成・充実の促進
今後の方向性	ほかの社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成に努めながら取り組んでいく。

項 目	ロセトクラブの開催（継続）
目 的	子どもの余暇の充実のため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	・ロセトクラブ（短期） 6月～3月／30回 209名 内 容：工作、編み物、生け花、習字など ・ロセトクラブ（長期） 6月～3月／21回 20名（延べ118名） 内 容：絵画教室、美術教室、バイオリン 指導者：登録 17種26名（子どもと遊ぼうボランティア隊）
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課 題	市民ボランティアの自主運営としているため、開催時期や人数などで指導者と参加者ニーズが合わない場合がある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項 目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目 的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	利用者が増加した場合の部屋確保等
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項 目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目 的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	例年、多数の親子入場者がいることから、今後も引き続き実施する。

項 目	子ども夢育事業（継続）
目 的	市内中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした文化講演を開催し、夢を持って生きることの大切さを学び、感性豊かな心を育むことでたくましく生きる力を形成する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	講師選定や開催時期、場所、手法などについて学校との連携調整が必要
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項 目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目 的	子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	・ 夏休み教室（2教室 15名） 「夏用布マスク作り」（指導：わくわく塾のみなさん） 8月4日・8日 午後1時30分～15時 小学生7名 「フラダンスを楽しもう！」（指導：城寶 由郁里さん） 8月6日 午前10時～12時 小学生8名 ・ 冬休み教室（3教室 25名） 「漢字を楽しもう2」（指導：わくわく塾のみなさん） 1月11日 午後2時～3時30分 小学生 3名 「万華鏡を作って遊ぼう！」（指導：萩原 健夫さん） 1月17日 午前10時～12時 午後1時～午後3時 小学生14名 「クラフトバンドでミニかごを作ろう！」（指導：泉 美由紀さん） 1月23日 午前10時～12時 小学生8名
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課 題	子どもを対象とした創作体験事業を検証・評価し、網走の魅力や価値に関心を寄せることができる学習プログラムを今後も引き続き検討する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

（3）学習成果を還元する機会の充実

項 目	学校支援地域本部事業の実施（継続）				
目 的	家庭・学校・地域が一体となって、子どもを育てる体制を整える。				
取組実績	・ 学習支援	13校	36件	ボランティア延人数	300名
	・ 部活動指導補助	2校	3件	ボランティア延人数	182名
	・ 環境整備支援	1校	1件	ボランティア延人数	12名
	・ 登下校安全指導	8校	9件	ボランティア延人数	2,625名
	・ 学校行事補助	1校	1件	ボランティア延人数	5名
	・ その他の支援	5校	9件	ボランティア延人数	649名
	合計	16校	59件		3,773名
成 果	平成 20 年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。				
課 題	学校からの要望に対応できる体制の整備とボランティアの育成				
今後の方向性	市内全小中学校で導入されたコミュニティスクールと連携を図りながら、推進体制の整備を行い、事業を継続していく。				

項 目	学社融合事業「まちの達人出前事業」の実施（継続）
目 的	学校の企画により、豊富な経験や知識・技能をもつ市民を授業の講師として派遣する。
取組実績	・ 対 象 市内小中学校の授業 ・ 要 件 1校あたり原則3回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。 ・ 支援内容 講師謝金を支援する。 ・ 事業実績 9校21件 市民講師 8名3団体 総合学習12件、体育9件
成 果	総合的な学習の時間を中心に、地域の歴史・文化・マナーを学ぶために地元の人材が活用された。また、器楽合奏・体育などの専門的な科目において、技術・知識を持つ市民が指導に当たった。
課 題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項 目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目 的	生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活を支援する。
取組実績	・家庭教育学級 小学校（中央小学校）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 中学校（第二中学校）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 郊外地区（東小学校）※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・家庭教育フォーラム兼網走市PTA連合会研究大会 内 容 10月3日 エコーホール 参加者 120名 講演「戦わないコミュニケーション」～会話のはじめはイエスから～ 講師 山崎 洋実 氏
成 果	家庭教育学級は令和2年度は中止になったものの、年度ごとの当番制で各单位PTAの自主的な企画によって、年齢や地域的な個別テーマにより実施しており、毎回多くの参加者がある。
課 題	学校やPTAなどとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、PTA等の市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項 目	親と子のふれあい教室（継続）
目 的	1歳半～3歳の幼児を育てる親のために生活の中で役に立つテーマについて親子で学び、体験する機会を提供するとともに、親同士の交流の場となるよう開催する
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、6月23日のオンライン講座のみの実施 ・講座名： 「ママ歯科医師が伝える『先手必勝！』～歯の話～」（オンライン講座） ・講 師： クリオネ矯正歯科 三崎 ゆり 氏 ・参加者： 15組
成 果	令和2年度は1講座のみの開催となったが、オンライン講座に変更したことにより、幼児を抱える受講者も安心して参加しやすい受講環境を作ることができた。
課 題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような内容を研究し、若い子育て世代の居場所、ネットワークづくりにつなげていく必要がある。
今後の方向性	参集型とオンライン型の参加形式を織り交ぜながら、保健センター、子育て支援センターの取り組みと情報を共有しながら取り組んでいく。

項 目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目 的	都市化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てることが難しくなっており、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	・開設日：9月15日 午前10時～11時30分 ・講演名：「子どものしあわせ 大人のしあわせ」（オンライン講座） ・講 師：非営利団体コドモノミカタ代表理事、乳幼児教育実践研究家 井桁 容子 氏 ・参加者：31名
成 果	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン講座に変更したが、幼児を抱える受講者も安心して参加しやすい受講環境を作ることができた。
課 題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような講座内容を研究し、開設方法を研究していく。
今後の方向性	参集型とオンライン型の参加形式を織り交ぜながら、子育て支援センターや保育施設などと意見交換、情報交換を行いながら、内容の充実を図っていく。

(2) 子どもを育む地域力育成の支援

項 目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目 的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	・豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表 発表者：市内小中学生 14 名（小学生 8 名、中学生 6 名）、聴衆者：130 名 ※第一中学校代表を少年の主張オホーツク地区大会へ推薦 ・啓発活動、標語募集 「あいさつ」「親切」「環境美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選 30 作品を活用したカレンダーを作成 応募数：1,660 点
成 果	豊かな心を育てる活動推進会議は、青少年の健全育成を推進する全市的な組織として重要な存在となっており、学校とも連携していることから、啓発活動が広く効果的に進められた。
課 題	標語テーマの再検討など、活動がさらに活発化する取り組みが必要である。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取り組みであり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項 目	文化団体の活動支援（継続）
目 的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	第21回市民文化フェスティバル（9月～11月） ・展示部門 ① 華道展 9月17～18日 ② 子ども書道展 10月17～20日 ③ 子ども絵画展 10月27日～11月3日 ④ 書道展、俳句展、絵画展、盆栽展、合唱祭、舞台芸能発表、斜網地区道民芸術祭 ※④については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	令和2年度は多数の事業が中止となったが、広範で多岐にわたる芸術文化活動の発表の場を開設している文化連盟の活動を支援することにより、市民生活や生涯学習の観点に立った芸術文化活動の推進を図ることができた。
課 題	文化連盟の自主性を発揮した取り組みがなされており、現状で課題はない。
今後の方向性	市民の文化団体活動の振興・発展のため必要な助成事業であり今後も引き続き実施する。

項 目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目 的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により申請なし。
成 果	
課 題	広く事業を活用してもらうため更なる周知広報が必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、広報PRを図っていく。

項 目	オホーツク・アートセミナーの開催支援（継続）
目 的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供する「オホーツク・アートセミナー実行委員会」が行う事業に助成することにより、地域の芸術活動の活性化を図る。
取組実績	・音楽部門 ① バンドクリニックⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 開催時期 Ⅰ：1月6日 Ⅱ：6月24日 Ⅲ：7月11日、9月13日、11月7日、12月5日、12月18日 Ⅳ：中止 会 場 エコーセンター2000、市民会館、各学校 受講対象 網走小、第一中、第二中、第三中、第五中、網走吹奏楽団、南ヶ丘高校、桂陽高校 内 容 音楽活動への意欲及び表現力を学ぶ（指導者：小間 康啓 氏、佐藤 淳 氏、山瀬 哲郎 氏、栗原 雄大 氏、古川 幸宏 氏） 受講者 185名（Ⅰ：35名1校 Ⅱ：25名1校 Ⅲ：125名1団体4校） ② リコーダークリニック 開催日 10月28日 会 場 第五中学校 内 容 リコーダーの演奏技術の向上を図る（指導者 金子 健治 氏） 受講者 3名 ・美術部門 ① 美術（書）講座「近代詩文」漢字とかなの表現 開催日 8月29・30日 会 場 網走市民会館大会議室 内 容 近代詩文の大家「金子鷗亭」の書を鑑賞し、現代の文書（漢字と仮名の混じった）を基に書を表現してみる。（指導者：瀧野 喜星 氏） 受講者 10名 ② デザイン講座Ⅰ「消しゴムハンコに挑戦」 開催日 3月28日 会 場 網走市立美術館ロビー 内 容 文化の交流や表現方法を学ぶ（指導者：富田 美穂 氏） 受講者 9名 ③ デザイン講座Ⅰ 「キャンドルづくり」 開催日 1月29～31日 会 場 流氷まつり事務所 内 容 造形の技術向上を図り社会奉仕に貢献（指導者：山本 成治 氏） 受講者 6名 ・歌曲講座 中止
成 果	令和2年度は一部事業が中止となったが、国内一線級の専門講師による表現技法の指導により、技術レベルの向上と地域文化の活性化が図られた。
課 題	同実行委員会は、自主的な運営が図られており、現状で課題はない。
今後の方向性	引き続き支援を行う。

項 目	網走市民大学の開催（継続）
目 的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し助成することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や、教養の向上を図る。
取組実績	網走市民大学講座 開設日：9月～11月 講座数：5講座 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため内1講座中止 会 場：エコーセンター2000 エコーホール 内 容：自然科学・人文科学など 参加数：登録受講者81名／延べ468名 運 営：網走市民大学役員会
成 果	1講座が中止になったものの、市民組織により、幅広いジャンルの充実した学習内容を編成し、円滑な運営が行われた。
課 題	地域や生活に密着した学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	役員会において、学習プログラムの編成方法などの検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等との情報共有を図ることにより、ねらいとテーマを明確にしたうえで講師選定などに工夫しながら引き続き取り組んでいく。

項 目	芸術文化合宿誘致事業への支援（継続）
目 的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業に助成を行い、芸術文化活動の拠点となる体制作りを進める。
取組実績	① 北海道教育大学旭川校国語教育専攻書道研究室（旭川市） 8月22・23日 受入人数：2名 補助内容：広報宣伝費 ② 山中能舞台（大阪市） 1月6日～9日 受入人数：5名 補助内容：合宿活動における移動手段の確保、稽古会場の確保 ※他に予定していた2団体については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
成 果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2団体のみを受け入れとなったものの、市外の芸術団体が市民参加のワークショップや稽古合宿を行い、市民の芸術文化に対する関心を深める機会となった。
課 題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制と併せ、合宿先として選択されるための魅力ある資源のPR活動が必要となる。
今後の方向性	実行委員会が主体となって、合宿団体への支援体制の充実や網走の魅力について広報PRに取り組んでいく。

（２）鑑賞機会の拡大

項 目	あばしりファミリー劇場（継続）
目 的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	市民実行委員会による効率的で安定した運営計画
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら、引き続き実施する。

項 目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目 的	誰でも気軽に音楽を鑑賞できる場を用意し、文化振興を図るとともに、エコーセンター2000が市民に開かれ、親しみやすい施設となることを目指す。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施団体なし。
成 果	
課 題	多様な発表内容、分野への対応
今後の方向性	施設利用に配慮しながら、演奏時間の延長や複数団体の共演など、出演者の自由度の増した魅力あるコンサートづくりを進める。

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れオホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	○親子クラシック2020「グラデビ 赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」 開催日：11月5日（木）午前10時30分 会 場：エコーセンター2000 エコーホール 内 容：赤ちゃんから大人まで一緒に楽しめるバイオリンとピアノコンサート 入場者数：57名 ○宝くじおしゃべり音楽館 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和3年度に延期 ○市民企画提案公演 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ○土田 英順チェロコンサート（東日本大震災チャリティーコンサート） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	令和2年度は市民企画提案公演を含め3公演が中止となり1公演のみの実施となったが、幼児とその親を対象にした芸術文化の鑑賞機会を提供し、情操教育の一助に寄与することができた。
課 題	補助事業を含め、芸術鑑賞事業の需要と供給の全体像を把握するとともに、公演事業を企画運営できる市民組織の育成について引き続き検討が必要である。
今後の方向性	企画から運営までを含め市民と行政が連携して実施する手法により、集客・収支率の向上を目指しながら引き続き実施する。また、広域の連携を図りながら効率的な公演が図られるよう努める。

項 目	ふるさとアーティスト公演事業（継続）
目 的	網走にゆかりのあるアーティストを招待することにより、網走がアーティストの活動拠点となるきっかけ作りをし、市民にも幅広い分野の公演を行うことで芸術文化に触れる機会を増やすことを目的とする。
取組実績	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演事業は中止としたが、市民に広くふるさとアーティストとその活動を知ってもらう目的でFMあばしり番組を活用した紹介番組を制作し放送 番組名：「ふるさとアーティスト in ABASHIRI」 放送日：9月7日～10月31日 ・毎週月曜日（12時台）約10分／毎週水曜日（18時台）約10分 ・毎週土曜日（17時台）約20分（月・水曜日の再放送） 放送回数：計24回 出演者：網走市にゆかりのあるアーティスト16名、その他、共演者4名 放送内容：アーティスト活動紹介、楽曲や作品の紹介、網走の思い出トークなど
成 果	公演は中止になったものの、ラジオを通してふるさとアーティストとその活動を市民に広く紹介することができた。
課 題	公演の入場者の増加を図るため、アーティストや有識者からの意見など広く情報収集を図り、より効果的な公演企画の検討が必要
今後の方向性	網走がアーティストの活動拠点となるきっかけ作りを目指し、アーティストの現在の活動状況を把握するよう努め、幅広い分野の公演提供と市民との交流促進を図っていく。

(3) 美術館の充実

①所蔵作品の展示

項 目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目 的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 250 日 観覧者数 高校生以上 2,346 名 中学生以下 204 名 合計 2,550 名
成 果	郷土出身作家だけでなく、郷土作家と関連のある若手作家の作品を公開することができた。また、コレクションの紹介も併せてできた。
課 題	作家の紹介など、展示方法の改善についての検討が必要である。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項 目	所蔵作品展『藤倉英幸の世界』（継続）
目 的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・会 期 所蔵作品展 4 月 7 日～5 月 31 日 (45 日間のうち 10 日開館) ・観覧者数 高校生以上 17 名 小中学生以下 2 名 合計 19 名
成 果	緊急事態宣言及び照明改修工事のため休館し、実質 10 日であったため観覧者が少なかった。
課 題	特になし。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②企画展の開催

項 目	現代の書へ『金子鷗亭展』の開催（新規）
目 的	函館出身の文化勲章受章者、書家・金子鷗亭を紹介する。
取組実績	・会 期 7 月 18 日～9 月 6 日 (44 日間) ・観覧者数 高校生以上 429 名 小中学生以下 13 名 合計 442 名 ・関連事業 コロナのため作品解説は録画しロビーで放映 (442 名)
成 果	近代詩文の金子鷗亭を展示し、漢字仮名混じりの書を紹介できた。
課 題	小・中学生の鑑賞者が少ないため改善が必要。
今後の方向性	小・中学生の書写から表現の書への過程の展覧会が必要である。

項 目	-追悼-『長谷川誠展』の開催（新規）
目 的	網走市出身の日本画家・故・長谷川誠の作品を紹介する。
取組実績	・会 期 ①9 月 26 日～11 月 3 日 (33 日間) ②11 月 7 日～12 月 6 日 (26 日間) ③1 月 12 日～2 月 14 日 (29 日間) (計 88 日間) ・観覧者数 高校生以上 788 名 小中学生以下 86 名 合計 343 名
成 果	網走市出身の郷土作家の紹介ができ芸術鑑賞の拡充が図られた。
課 題	現在、収蔵を視野に入れている作品の劣化が進まないようにする必要がある。
今後の方向性	長谷川誠の生涯作品をまとめ回顧展として開催し資料をまとめ公開する。

項 目	-国産牛 100%-『富田美穂展』（新規）
目 的	学校教育で多く取り上げられる、版画作品の鑑賞機会の充実を図る。
取組実績	・会 期 2 月 27 日～3 月 28 日 (25 日間) ・観覧者数 高校生以上 945 名 小中学生以下 100 名 合計 1,045 名 ・関連事業 ギャリートーク 2 月 27 日 60 名参加
成 果	版画のなかで木版画はなじみが多く導入しやすい。その木版画の表現の可能性を多くの鑑賞者に見せることができた。
課 題	他の種類の版画も同様にできればと考える。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していきたい。

③移動展の開催

項 目	第 6 1 回北海道書道展 網走移道展の開催（継続）
目 的	第 6 1 回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	高校生などの書道作品の展示や著名な書家の作品展示の検討が必要である。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	第 67 回写真道展（継続）
目 的	北海道内の写真公募展である『第 6 7 回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況であり、関心を高めるための普及事業や広報活動などの取り組みが必要
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項 目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）
目 的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	書道講座 8 月 29 日・30 日 参加者 21 名 版画講座 3 月 28 日 参加者 9 名
成 果	多くの方が受講し美術活動の活性化の契機となった。
課 題	講座終了後も継続して創作活動ができるよう支援する。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	出張美術館の実施（継続）		
目 的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。		
取組実績	第三中学校	8 月 28 日～ 9 月 4 日（ 8 日間）	378 名
	第五中学校	9 月 8 日～ 9 月 15 日（8 日間）	45 名
	第二中学校	9 月 16 日～ 9 月 25 日（10 日間）	200 名
	中央小学校	9 月 29 日～10 月 6 日（8 日間）	241 名
	呼人小中学校	10 月 20 日～10 月 30 日（11 日間）	61 名
	白鳥台小学校	11 月 2 日～11 月 6 日（5 日間）	67 名
	網走小学校	11 月 6 日～11 月 13 日（8 日間）	341 名
	西小学校	11 月 17 日～11 月 24 日（8 日間）	170 名
	第四中学校	12 月 4 日～12 月 15 日（12 日間）	92 名
	涛沸湖水鳥湿地センター	1 月 5 日～1 月 30 日（23 日間）	273 名
	清里町立清里中学校	2 月 2 日～2 月 9 日（8 日間）	163 名
	合計 2,031 名		
成 果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。		
課 題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。		
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。		

項 目	研修等の受入（継続）
目 的	職場体験や校外学習の受入を行い美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	講座 一般市民オープン講座 通 年 2 名 子どもオープン講座 4 月～3 月 14 名 鑑賞 ビデオ解説 7 月 18 日～9 月 6 日 442 名 対話型解説会 8 月 23 日 35 名 鑑賞学習 日体大附属高等支援学校 9 月 3 日 5 名 鑑賞学習 網走幼稚園 10 月 7 日 31 名 鑑賞学習 東京農業大学 10 月 27 日 29 名 鑑賞学習 網走西小学校 11 月 10 日 2 名
成 果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

（４）博物館の充実

項 目	特別企画展「網走の1964年・東京オリンピックの頃」の開催（新規）
目 的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「網走の1964・東京オリンピックの頃」の開催 令和3年2月2日～3月31日 入場者793名
成 果	前回の東京オリンピックが開催された頃の網走の街の様子を紹介できた。
課 題	小中学校の児童・生徒の見学機会提供のため、学校との連携強化が必要
今後の方向性	テーマを変えながら継続して開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項 目	特別企画展「オホーツク海のはなし」の開催（新規）
目 的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「オホーツク海のはなし」の開催 令和2年8月1日～9月29日 入場者1,093名
成 果	オホーツク海の成り立ちや生息する多様な生きものを紹介できた。
課 題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要である。
今後の方向性	市民や観光客等が網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項 目	剥製標本作製、遺跡出土資料の複製品作製（継続）
目 的	網走の歴史・自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・剥製標本作製 スズガモ、カワアイサ雄雌、オオルリの剥製4点（博物館展示）
成 果	郷土資料の収集・公開により、郷土の歴史と自然の豊かさを伝えることができた。
課 題	収蔵資料の有効的な活用のため、限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然・歴史資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項 目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目 的	モヨロ貝塚PRにより、モヨロ文化を街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・市内道路等10箇所での案内看板の設置及び市内外8箇所での出土品等の展示 ・女満別空港でのモヨロ貝塚の電照案内看板の掲示 ・モヨロまつり ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	雑誌等での案内、体験学習や講演会の開催を通じて、モヨロ貝塚をアピールできた。
課 題	各種の広報活動の継続的な実施と観光関係機関等との一層の連携が必要である。
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代層への広報を図っていく。

項 目	モヨロ文化講座開催事業（継続）
目 的	モヨロ貝塚を学ぶ機会の充実を図り、モヨロ文化の一層の周知と理解に努める。
取組実績	・モヨロ文化市民講座の開催 日時等：令和2年10月25日（日）14：00～15：30 参加者77名 テーマ：モヨロ人とオホーツク犬 講 師：内山幸子氏（東海大学准教授）
成 果	モヨロ人と犬との関係について学び、モヨロ文化の理解が深められた。
課 題	最新の研究成果を踏まえ、モヨロ文化を解説できる講師の選定が重要
今後の方向性	講座内容の充実を図り、モヨロ文化の理解と周知に努める。

(2) 文化財の保護と周知

項 目	博物館重要文化財指定推進事業（継続）
目 的	博物館建物の重要文化財指定を目指し、建物の文化財的な価値を高める。
取組実績	・特別展「田上義也建築の魅力と北見郷土館」の開催 令和2年11月3日～12月6日
成 果	特別展開催を通して、博物館設計者、田上氏の建築の魅力を紹介できた。
課 題	文化財的価値を充分検討しながら、建物保全に努めることが重要である。
今後の方向性	博物館建物を含め、田上建築の文化財的価値の周知を図る。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項 目	陸上競技場の整備（拡充）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	トラックレーンライン・マーキング全面改修、表示タイル改修、障害水濠改修
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	トラック舗装の摩耗等が進んでおり、施設の改修や必備用具の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	体育施設の整備（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	総合体育館 2・3 体育室照明取替、総合体育館非常用発電機蓄電池更新、アイスホッケーリンク施設改修、スポーツ・トレーニングフィールド舗装改修
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	地域プールの整備
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	西地域プールの屋根全面更新
成 果	整備により、利用者の利便性と安全性の確保、施設の利用促進が図られた。
課 題	老朽化が進み、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

（２）スポーツ活動の促進

項 目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	・市民硬式テニス教室 ※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止 ・市民バドミントン教室 15 名 6 日間 延 66 名 ・市民スキー教室 38 名 4 日間 延 147 名 ・冬休みスケート教室 19 名 4 日間 延 70 名 ・初心者スノーボード教室 15 名 5 日間 延 58 名
成 果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課 題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項 目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目 的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 16 名 15 回実施 延 141 名
成 果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課 題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項 目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	・開催日 令和 2 年 2 月 28 日（日） ・会 場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 25 名
成 果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課 題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項 目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目 的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子ども達がスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 9 名 9 回 56 名
成 果	運動する機会の少ない子ども達には、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課 題	子ども達のニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえるような魅力ある事業としていく。

項 目	夢の教室事業（継続）
目 的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子ども達に伝える。
取組実績	市内小学校 8 校（5 年生。一部の小学校では 5～6 年生） 11 コマ 242 名受講 ※オンラインで開催 ・1 月 20 日 講師「奥出 泰史（水泳）」中央小学校、白鳥台小学校 ・1 月 21 日 「式田 高義（サッカー）」潮見小学校 ・1 月 21 日 「森 友紀（アルティメット）」潮見小学校 ・1 月 22 日 「落合 真理（バレーボール）」呼人小学校、西が丘小学校 ・2 月 18 日 「小林 弥生・川邊 隆弥（サッカー）」網走小学校、西小学校 ・2 月 19 日 「斎藤 真由美（バレーボール）」網走小学校、東小学校
成 果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子ども達が自分の夢について考える時間を得ることができた。
課 題	子ども達の関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成 28 年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。

項 目	障がい者スポーツ教室の開催（継続）
目 的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋がっていく取り組みを行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 昼の部 11 回実施 参加申込者 34 名 延参加者 5 名 夜の部 11 回実施 参加申込者 9 名 延参加者 65 名
成 果	参加した障がい者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課 題	障がい者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。

項 目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目 的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

(3) 活動組織や指導者の育成

項 目	活動組織や指導者の育成（継続）
目 的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子ども達の育成支援を行う。
取組実績	・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数 22 団体 団員数 586 名 指導者数 131 名
成 果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課 題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項 目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目 的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子ども達のスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 1 件 計 51 千円 全道大会 3 件 計 978 千円 合計 1,029 千円
成 果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課 題	特になし。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。

項 目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目 的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3 団体 67 名
成 果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。12 月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により利用を中止としていたため、利用数は例年に比べ減少した。
課 題	日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。

(4) スポーツ合宿や各種大会の誘致

項 目	東京オリパラホストタウン構想推進事業（拡充）
目 的	東京オリンピック・パラリンピックにおいて、オーストラリアの 7 人制ラグビーとパラレーサー（車いす陸上）及び韓国の陸上長距離の「ホストタウン」に登録し、事前・直前の合宿誘致とともに、大会参加国・参加選手との交流や日本人オリンピック等との交流を行うことにより、地域の活性化を図ることを目的とする。
取組実績	韓国～2018 年 7 月に大韓陸上連盟と協定を締結。2019 年は合宿および市民交流事業として小学生陸上教室が行われた。2020 年は講演会、聖火展示イベントを開催
成 果	市民交流事業等を通じて、東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成が図られた。
課 題	特になし。
今後の方向性	・日本人オリンピック・パラリンピアンによる交流事業を実施し、市民の東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を図る。

項 目	障がい者スポーツ合宿誘致事業（継続）
目 的	日本障がい者スポーツ協会等の競技団体やトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし。
成 果	
課 題	合宿受け入れ体制（バリアフリー化の推進など）の充実を図る必要がある。
今後の方向性	障がい者スポーツ関係団体等に対し、誘致活動を継続する。

項 目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）
目 的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。
取組実績	パラスキー 1 団体 2 名 延 48 名 陸上競技 37 団体 440 名 延 4,413 名 その他 2 団体 41 名 延 648 名 計 40 団体 483 名 延 5,109 名
成 果	・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・合宿人数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度と比べて減っているが、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・多くのアスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課 題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。

項 目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目 的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	・ホクレンデイズ・チャレンジ 2020 網走大会（継続） 選手 258 名 観客数約 330 名 ・北海道学生野球秋季リーグ戦（継続） ・全日本軟式野球北海道大会（新規） ・オープンヨットレース北海道シリーズ（新規）
成 果	新型コロナウイルス感染症の影響により、例年より大会数は減少した。レベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課 題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項 目	国際理解体験事業（継続）
目 的	幼少期から生の外国語にふれたり、外国の伝統的な行事を体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・世界を旅しよう！～網走で外国を体験～ 日 時：8月23日（日） 午後2時～3時 参加者：小学生 20名、ボランティア 8名 会 場：エコセンター2000 大会議室 内 容：カナダ・オーストラリアについて、ビンゴゲームを通じて学習 ・ハロウィーン・スクール 日 時：10月24日（土） 午後1時30分～2時30分 参加者：小学生 47名、ボランティア 12名 会 場：エコセンター2000 エコホール 内 容：仮装、お化け屋敷、各種ゲーム、キャンディ投げなど
成 果	外国の伝統的な文化・風習のほか、世界のさまざまな国を体験・理解する学習機会として定着している。農大留学生、管内ALT・市民ボランティアの協力のもと、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出できた。
課 題	ボランティアと参加者が相互に外国文化に触れる機会となる内容・手法の研究
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

項 目	英会話指導員の配置（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話にふれることで、英語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 762時間20分 幼稚園： 5園 53時間10分 一般・サークル支援 16 時間 合計 831 時間 30 分
成 果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課 題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長および教育委員の就任状況

教育長：三島 正昭（平成28年 4月 1日就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日就任、職務代理 平成30年4月1日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日就任）
 益村 公人（平成30年 4月 1日就任）
 伊藤 亮人（令和元年 7月 1日就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、定例会のほか、必要がある場合には、臨時会を開催し、教育委員会の決裁を要する案件(議案)について、審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和2年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	令和2年 4月10日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について	原案可決
2	令和2年 4月17日	3名	議案第1号 新型コロナウイルス対策に関する緊急事態宣言への対応について	原案可決
3	令和2年 5月7日	3名	議案第1号 新型コロナウイルス対策に関する緊急事態宣言延長への対応について	原案可決
4	令和2年 5月15日	4名	議案第1号 網走市学校施設長寿命化計画について 議案第2号 学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第4号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第6号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第7号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第8号 網走市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第9号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 報告第1号 令和元年度卒業式・令和2年度入学式の状況について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認
5	令和2年 6月1日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について	原案可決
6	令和2年 6月4日	3名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 学校給食調理場の一部集約と調理業務等の業務委託について 報告第1号 新型コロナウイルス感染症への対応について	原案可決 〃 報告承認

7	令和2年 6月18日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について	原案可決 〃
8	令和2年 7月13日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市立学校における働き方改革推進プランの改定について 議案第3号 第4次網走市子どもの読書活動推進計画の策定について	原案可決 〃 〃
9	令和2年 8月11日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 報告第1号 令和2年度網走市社会教育推進計画について	原案可決 〃 報告承認
10	令和2年 8月21日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第3号 小学校及び中学校教科用図書の採択について 議案第4号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃
11	令和2年 10月5日	4名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 教育財産の取得の申出について 報告第1号 教育長職務代理者の指名について	原案可決 〃 報告承認
12	令和2年 11月24日	3名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市公の施設に係る指定管理者の指定について 報告第1号 成人式について 報告第2号 網走市電子図書館サービス開始について 報告第3号 SOMPOボールゲームフェスタ2020イン網走について 報告第4号 「あばしりまなび塾フェスティバル」10年後へのメッセージ紛失について 報告第5号 学校給食について	原案可決 〃 報告承認 〃 〃 〃 〃
13	令和2年 12月3日	3名	議案第1号 網走市立図書館条例施行規則の一部改正について 議案第2号 令和3年度教育予算の要求について	原案可決 〃
14	令和3年 1月22日	3名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について	原案可決
15	令和3年 2月12日	3名	議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 令和3年度教育予算について 議案第3号 令和3年度教育行政推進方針について	原案可決 〃 〃
16	令和3年 2月26日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について	原案可決
17	令和3年 3月10日	3名	議案第1号 令和3年4月1日付校長人事の内申について 議案第2号 令和3年4月1日付教頭人事の内申について 議案第3号 令和2年度一般会計補正予算要求について 議案第4号 網走市基金条例の一部を改正する条例制定について 議案第5号 網走市立学校管理規則の一部を改正する規則制定について 議案第6号 第2次網走市特定事業主行動計画（後期計画）の策定について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
18	令和3年 3月17日	3名	議案第1号 網走市教育委員会教育長の辞職について	原案可決

19	令和3年 3月26日	3名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第2号 網走市公共施設等個別計画（教職員住宅編）の策定について 議案第3号 網走市公共施設等個別計画（社会教育施設編）の策定について 議案第4号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和3年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 〃 〃 報告承認 〃
※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。				

3 その他の主な活動

（１）各種会議への出席等

例年、教育委員は、教育委員会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式・卒業式は出席しないこととした。また、令和2年度中において成人式は延期となっている。

区 分 ・ 会 議 名		出席者	時 期
オホーツク管内 教育委員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会（書面開催）	教育長他	令和2年5月
	網走ブロック総会・研修会（書面開催）	教育長他	令和2年9月
	教育長研修会（網走市）	教育長	令和2年10月21日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（書面開催）	教育委員	令和2年8月
	教育長会春季総会（書面開催）	教育長	令和2年5月
	教育長会秋季総会（書面開催）	教育長	令和2年11月
※上記のほか、各種の会議等にも出席している。			

（２）教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和2年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

＜案件以外で説明したもの＞

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・学校経営報告について（毎月）
- ・熊出没、不審者情報等について（随時）
- ・新型コロナウイルス感染症の対応について（随時）

4 教育委員による自己点検

令和2年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ これまで、校長会、教頭会、PTA役員などとの交流を通じ、互いに情報交換できる機会がありましたが、コロナ禍になり実行できておりません。可能であれば、学校・PTA・各団体との相互理解、共通理解のために、オンラインにて情報共有、情報交換の場を持てればと思います。
- ・ 学校教育においては、益々地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させる事が大切と考えます。このコロナ禍においても3者が自由に意見交換が出来る場をつくるべきと考えます。
- ・ コロナ禍の環境において、対面での意見交換の場が相当に制限されました。特に先生方(校長・教頭)と教育委員会とのコミュニケーション不足は、円滑な教育活動にマイナス要素である事から、Web会議や計画的な学校訪問等を検討し、コミュニケーション向上に努めたいと思います。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ コロナ禍の現状において、各学校のPTA主催による講演会また入学式・卒業式への参加は難しく大変残念に思います。
- ・ とても良い取り組みが多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただくための情報発信の在り方を検討します。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子供たちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、姉妹都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものとなると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要だと思います。どのような情報発信が良いのかこれに重きを置いて取り組んで行ければと思います。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ 平成22年度から、社会教育部では「あばしり学」講座が行われています。
学校教育部、社会教育部ともに、市民要望等に対応した、意欲ある新たな取り組みが行われており、参加者の高い評価が感じられました。
- ・ 社会教育分野の活動について、市民ニーズに応えられるよう、更なる充実を図ることが望ましいと感じます。
- ・ 学校や教育委員会施設の状況を把握するための、訪問ができませんでした。

昨今の状況を鑑みて可能な限り現場を訪問するよう努力します。

- ・ スポーツ施設やスポーツ行事の企画・開催に参画することで、市民や児童生徒の健康体力の向上に協力させていただいています。
- ・ 市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取り組みを引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えると思います。また、道徳の時間の授業公開も年々拡大してきていますので、今後も更に発展させてほしいと思います。
- ・ 小学生の英語授業導入については、ALT以外にも語学に堪能な市民に協力を依頼するなどして英語に慣れ親しむ機会が増えると思います。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めてほしいと思います。
- ・ 毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表したことにより、学校・家庭が一体となって児童・生徒の学習への取り組みが改善され、市内児童生徒の更なる学力向上を目指します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼・保、小中高連携の推進、PTA・地域との連携による基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた様々な取り組みが必要であると思います。
- ・ 市内児童及び生徒の読書量は、読解力を向上させることに大変重要であることから、電子図書館等の利活用・普及をはかり、読書量増加につながるよう検討して行きたいと思います。
- ・ 児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表し、学校・PTA・地域が一体となって、更なる体力向上を推進できる体制の構築を行ってまいります。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・ 大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなると良いと思います。また、時間外労働報告も散見されており、令和2年度は特にコロナ対応が普段の仕事に加算されたことも一因として考えられますが、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視して行きたいと思います。
- ・ 教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取り組みをしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・ 休校により自宅で過ごす時間が増えたこともあり、スマートフォンやタブレットなどICT機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特にSNSやゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、ITリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取り組みがより一層必要と考えます。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ 各学校の代表が参加して自校の魅力を披露・発表する機会を設けてもよいのではないかと感じます。それにより、画一的な学校づくりを打破する材料を得られるのではないかと考えます。
- ・ 市内で始まったコミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校との繋がりをバックアップして参りたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの状況報告を受けながら、今後の環境整備充実のためのフィードバック情報を関係者と議論してまいります。
- ・ 自分自身が過去にPTA役員を務めていましたが、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸したことはありませんでした。コミュニティ・スクールの話し合いの場において、そのような投げかけをし、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいりたい。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取り組みをしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたい。新型コロナウイルス感染拡大予防から今後しばらくは、他市教育委員会との意見交換の場が制約されると予想されるので、教育委員会を通じた様々な取り組みの情報収集に努めます。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催すると良いと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し、「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて、「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。
- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、コロナ禍において可能な限り視察・研修する機会を次年度以降持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交

流を深めていくべきだと思います。

- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報する事が教育委員会活動を市民の皆様へ周知させる第一歩だと思います。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・ 給食民間委託案件、給食調理場集約案件に関わり、この問題が抱える様々なリスク（最悪は給食提供の停滞他）をあらためて整理すると共に、これを丁寧に情報提供及び説明し、数多くの賛否両論者の意見を集積しながら合意形成する必要があります。最終成果は、子供達への安心な給食提供であることから、その命題がブレないよう教育委員会事務局のマネジメントを支援し、この問題を不安視する関係者との相互理解が出来るよう努めます。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和3年8月10日）』

網走市教育委員会外部評価委員

東京農業大学生物産業学部 教職課程兼担食品香粧学科 教授 後藤 広太郎
元網走市社会教育委員 山本 成治

1 総 評

本報告書は、網走市における教育行政の執行にかかる外部評価結果について報告するものであります。結論として、①網走市教育委員会の令和2年度活動における指摘事項はほとんどなく、②網走市教育委員会の活動がより家庭・地域・学校に浸透するための提言をさせていただきます。

以下、特に注目した教育委員会の活動について、「教育委員による自己点検」と「教育事情に関する最近の動向（文部科学省の大学教員養成課程に対する動き：今後の教員像を反映）」とを照らし合わせて検証報告および事例を基に報告させていただきます。

昨今、世界的に「スマートフォン」による人間の認知機能への影響が注目されております。検証実験の知見のさらなる蓄積が待たれますが、研究報告の中で「スマートフォン利用が集中力の持続を妨げる恐れがある（結果として学習した内容を記憶定着できない）」ことが指摘されており、家庭及び学校教育における迅速な対応が求められております。

「如何に集中力を持続できる環境を設定し、子ども達の学習活動をサポートするか」、この切実な課題に対して網走市教育委員会は既に具体的な対応活動を実施しております（後述～寺子屋学習サポート）。

2 大学という教育・研究機関の視点からの検証

「東京農業大学学生・網走市立学校連携事業」等について

（1）多彩な学生ボランティア活動

網走市内の教育活動にボランティアとして大学生が参加することにより、各学校の教育活動をサポートするのみならず、将来教員となる大学生自身の成長発達も大いに期待出来ます。

特に、網走市教育委員会が継続して大学との連携活動を推し進めていることにより、学生ボランティア活動を含む教育活動が年々充実しております。

その中でも、網走市教育委員会は5年前から独自の取り組みとして「網走寺子屋学習サポート」を年数回土曜日午前中に定期的に実施しております。この取り組みは、小学1年生から3年生を対象とした活動で、主に東京農業大学教職課程履修学生が子ども達と一緒に学習に取り組むスタイルを取っております（メンタリング活動に該当）。実際に毎回のサポートに参加したところ、『一貫して小学生の集中の持続時間が長く』、学生も普段より責任を自覚した振る舞いを見せることが確認されました（事後報告レポートで検証）。教育委員会関係者の実に緻密で子どもを主役とした「教育環境」設定により、子どもも大学生もそれぞれ安心して楽しく意欲的に活動に取り組めるようになされていることが伺えます。また、保護者からの評価がとても高く、実施回数を増やしてほしいとの要望が数多く上がっております。

公立学校間比較において学力が高い地域の一つである福井県（2018年度以降の学力・

学習状況調査でも上位の結果)は、学力上位県となった背景の一つとして、県内の大学と小中学校が密接に連携して教育効果の向上を目指したことを挙げております。現在、網走市教育委員会は教員養成課程のあらゆる面で地域資源の一つとなり得る東京農業大学との具体的な連携を強めており、目先の結果だけにとらわれず、未来を見据えた中・長期的な視野に立って学力向上の土台強化を確実に進めていると評価いたします。

(2) 地域との連携・コミュニティ・スクールの形骸化の恐れ

前述した寺子屋学習サポートは、地域の資源・力を活用した効果的な取り組みですが、この形態はそのままコミュニティ・スクールのモデルとして高く評価出来ます。全国の自治体によっては「形骸化」も囁かれているコミュニティ・スクールについて、残念ながら網走市全体の小中学校における現状は、一部では十分な機能を果たしているとは言えません。本学教職課程は、①寺子屋学習サポートを体験出来ていること、②網走市内小学校勤務である現職教員が非常勤講師として教職課程科目でチーム学校や地域との連携活動内容を報告してくださっていることにより、地域との連携が如何に必要となっているか真摯に受け止める機会をいただいております(90%が道外出身者のため、地元の自治体と比較検討がなされているようですが、これらに関して網走市教育委員会の評価は非常に高いことが確認されております)。

コミュニティ・スクールは、地域や保護者の方々に学校現場を理解していただく機会でもあり、一方で、現職教員を疲弊させることにつながりかねない「学校現場の業務増加」への有効かつ具体的な対応策にもなると断言できます。そのためには、特定の人材に偏らない組織構成が大切であり、そのことが子ども達を地域ぐるみで育てていくために、本当に意味のある学校運営につながるものと思われれます。

この点につきましては、既に網走市教育委員会は「寺子屋学習サポート」という全国的に評価される「意味のあるコミュニティスクール・チーム学校モデル」を完成させております。網走市教育委員会の率先した活動成果により、既に本学へコミュニティ・スクールへの具体的な内容による協力打診をしてくださっている小学校もございます。

しかしながら、一部で地域の資源・力を十分に活用できていない場合も見られます。

その原因は、教育委員会が目指す教育活動を市内各小中学校に浸透させられていない点が挙げられ、教育委員会(指導主事)の指導内容が、学校運営に反映されていないことを危惧しております。

「公教育関係者以外の第三者」が網走市教育委員会が目指す素晴らしい教育活動を全面的に下支えするシステムを構築し、学校現場で行われる教育活動に対して、必要に応じて各小中学校への指導助言が十分浸透するようサポートさせることを強く提言いたします。

3 社会教育の推進

生涯学習

- ・ エコーセンター2000 は、生涯学習の活動拠点として広く市民に利用されています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの団体・サークルの活動が制限される状況が続きました。今後も感染症の収束までは時間がかかると予想されるため、施設利用者への啓発を含め、施設における感染拡大防止対策を継続的に実施していくことが求められます。
- ・ 令和2年度の生涯学習事業は、密集、密接の場面が生じる様々な事業の中止が余儀なくされました。一方、コロナ禍でオンラインの活用が進んだことから、市は「大きなかぶ応援事業」の対象としてオンライン学習会を新たに加えました。新たな学

習スタイルに対応した取り組みだと考えます。

- ・ エコセンター 1 階受付前の企画展示は、季節に応じた内容の展示がコンパクトにまとめられ、来館者が気軽に観覧し学べる機会となっています。今後も市民の興味を引くような企画展示を期待します。
- ・ 図書館では、国の緊急事態宣言に伴う臨時休館中、電話等で図書の貸出予約を受け付け、翌日以降に受け取れる「ステイホーム読書」を実施しました。不要不急の外出が制限される中、市民のニーズに柔軟に対応した取り組みでした。
- ・ 令和 2 年度は電子図書館システムが整備されました。電子図書館は、来館の手間が要らず 24 時間利用できるなど市民の利便性の向上が図られることから、今後の利用拡大を期待します。

社会教育

- ・ 各種講座について、寿大学では分散登校やコミュニティラジオの活用、市民大学講座では、座席の間隔を空け、事前予約・指定席制とするなど、三密（密集、密接、密閉）を避ける対策を講じて実施されました。市民が安心して講座に参加するためには、今後もこうした感染拡大防止対策が重要となります。
- ・ 市民大学講座の第 5 講座は、感染拡大防止対策のため、遠隔地の講師と会場をオンラインで結んで開催されました。このようなオンライン活用も取り入れ、コロナ禍の市民の学習機会の確保に取り組んでももらいたいと思います。

家庭教育

- ・ 家庭教育について、「幼児を育てる親の子育て講演会」と「親と子のふれあい教室」の 1 講座がオンラインで開催されました。少子化が進む中、子育ての不安解消につながる講座であり、子育て支援センター、保健センターなどとも情報共有しながら、子育てしやすい環境づくりにつながる事業展開を期待します。

芸術文化

- ・ 文化団体の活動支援について、市民文化フェスティバルを実施する網走市文化連盟への助成が行われています。令和 2 年度は、コロナ禍で市民の文化活動の発表機会が減少する中、子ども書道展・絵画展が開催され、子どもたちの発表機会が確保されました。今後も市民の創造的な文化活動支援の取り組みを期待します。
- ・ 芸術文化事業について、親子クラシック 2020 は、良質な生のクラシック音楽を幼児が体験できる貴重な演奏会ですので、今後も継続的な取り組みを期待します。
- ・ 美術館の展示については、所蔵作品の常設展示のほか、企画展が開かれました。それぞれ個性あふれる作家の作品が鑑賞者の目を楽しませていました。書道、木版画など多様な美術形式が取り上げられており、年間を通じて興味深い展示になったと感じます。
- ・ 美術館では、ギャラリートークや作品解説会にも意欲的に取り組んでいます。市民の美術への理解を深め、多くの人が美術館に足を運ぶ機会となりますので、今後も積極的な取り組みを期待します。
- ・ 博物館の特別企画展は、網走の自然や郷土史を学べる企画が実施されています。「網走の 1964 年・東京オリンピックの頃」は、当時の網走の様子や雰囲気を知ることができる展示でした。今後も網走の身近な自然や歴史に焦点を当てた企画を期待します。

文化財

- ・ 博物館の建物に関連する事業として、特別展「田上義也建築の魅力と北見郷土館」が開催されました。博物館設計者・田上義也氏について学び、建物の魅力や価値を再認識する機会になったと考えます。

スポーツ

- ・ 市民の体力低下を防止するため、楽しみながら健康づくりのためのスポーツに取り組める環境の整備に引き続き努めてもらいたいと思います。
- ・ 2021 年の東京オリンピックに向けて、聖火展示など関連事業が開催されました。こうした企画は、スポーツへの関心を高めるよい機会だと考えますので、市民のスポーツ振興につなげるような取り組みを今後も期待します。
- ・ 2021 年は東京パラリンピックが開催され、障がい者スポーツへの関心が高まることが予想されます。障がい者スポーツ教室の開催や今後の障がい者スポーツ合宿誘致の取り組みを期待します。日本体育大学附属高等支援学校等との連携により、誰もがスポーツに参加して運動を楽しめるような環境が実現することを期待します。

国際化対応

- ・ 英会話指導員の配置により、幼児・児童への英語の指導が実施されています。教材も指導員が独自に制作し、楽しみながら英会話や英語での表現に触れることができる内容となっています。
- ・ 子どもたちが外国文化を楽しみながら体験・理解する機会として、「世界を旅しよう」「ハロウィーンスクール」が開催されました。ゲームなどを通じて外国文化への関心を高める企画となっており、国際感覚の育成につながる事業だと考えますので、今後も工夫を凝らした取り組みを期待します。